

世羅町立甲山小学校 「プロジェクト型学習」単元計画

世羅町のヒーローを探せ！プロジェクト

令和5年11月9日(木)

指導者 田鍋 絢香

介助員 金廣 るみ

場所 3年生教室

学年・教科	第3学年・総合的な学習の時間
学習テーマ	世羅の魅力を伝え、広げるためには
関連SDGs	11 住み続けられるまちづくりを

単元情報

(1) 単元計画の概要

世羅町は、寒暖差を利用した農業が盛んな町である。また、今高野山などの歴史的価値のある建物も残っている。これらの町の特色を生かして、農業で町おこしをされている方や文化財の保存に尽力されている方も多い。また、甲山小学校の学校文化の一つである鼓笛の継続に関わってくださる方や、コミュニティスクールの学習支援に協力してくださる方など、学校運営に関わって尽力してくださる方も多く、地域の人材が豊富である。

3年生の児童は、昨年度の生活科において、町探検に出かけ地域にある建物や公共施設について学習をしてきている。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の人と関わる経験が乏しく、自分たちの生活を支えてくれている地域の人々の存在について認識できていない児童が多い。4月に、地域について知っていることを出し合った際には、建物についての意見が多く出る一方、地域の人で知っている人は「あいさつおじさん」のみであった。なぜ「あいさつおじさん」はみんなから知られている存在なのかを考えさせると、「みんなのために頑張っている」、「みんなを笑顔・元気にしている」ことから、「まるでヒーローみたい」という意見が出た。そこで、あいさつおじさんのように、地域のために尽力されている「ヒーロー」を探し、世羅を元気にするために、自分たちにもできそうなことを見つけて実行する「世羅町のヒーローを探せ！プロジェクト」を設定した。

(2) 育成したい資質・能力

【自発性】

- ・自ら課題を見つけ、学習の進捗管理をする力。

【コミュニケーション能力】

- ・伝える力。
- ・受け取る力。

(3) 単元の目標

見つけた世羅のヒーローの姿から、自分たちにできることを見つけ実行し、発信する活動を通して、世羅町のために尽力する人々の取り組みや思いを理解し、世羅町に住む人々を元氣・笑顔にするために自分たちが出来ることを考え、自分たちで取り組もうとする態度を養う。

(4) 他の単元との関連

- ・社会「学校のまわり」(4月)
- ・国語「気持ちをこめて「来てください」」(6月)
- ・国語「引用するとき」(6月)

- ・国語「時ごとと時間」（6月）
- ・国語「仕事のくふう、見つけたよ」（7月）
- ・社会「農家の仕事」（7月）
- ・国語「修飾語を使って書こう」（10月）
- ・国語「はんで意見をまとめよう」（10月）
- ・国語「たから島のぼうけん」（12月）
- ・社会「市のうつり変わり」（2月）
- ・国語「つたわる言葉で表そう」（2月）
- ・国語「わたしたちの学校じまん」（3月）

児童の実態

（1）学級（学年）の雰囲気

本学級の児童は、今年度から初めて総合的な学習の時間の学習が始まり、「課題の設定」・「情報の収集」・「整理・分析」・「まとめ・表現」の探究のサイクルの回し方を全体で確かめ、体験しながら学習を進めている。7月に総合的な学習の時間に関するアンケートを実施した結果、「総合的な学習の時間の授業では、たくさん学び、満足していますか。」という問いに対して肯定的な回答は100%であった。児童の「町の人について知っていることが少ない」という気付きから、学習をスタートしたので、「町の人を知りたい」という意欲が高いためだと考えられる。

本単元の中心となる町の人との関わりについては、意欲的にインタビューの依頼を進めたり、インタビューの活動に取り組んだりしている。本校の保護者や学校へ指導に来てくださる方から改めて話を聞くことで、自分たちのために取り組んでくださっていることがあると気付き始めている段階である。地域のために自分たちに何ができるかについては、具体的にイメージできる段階には至っていない。

（2）資質・能力に係る状況

自発性に関わって、探究のサイクルを意識して設定した学習計画に沿って、学習活動に取り組むことで、「本時で何をすべきなのか」が明確になり、教師の指示を待たずに一斉学習での活動を進めることができる。しかし、時間通りに活動が進まなかった際に、どうすればよいか考えたり、どのように改善すべきかを見出したりすることは難しく、グループで計画を立てて実行していく段階には至っていない。

コミュニケーション能力に関わって、ペアトークやグループトークに意欲的に取り組むことができる。グループトークでは、話し合いを進めるのが得意な一部の児童が、全員の意見を出させ、よりよい考えを見出すために司会者として話し合いを進めている。全体の場で話す際には、自信がなくなり、声が小さくなるので、発表やインタビューで相手に内容が伝わらないことがある。

単元指針

（1）単元の目標を達成するための指導の工夫

（1）プロジェクト型アプローチの視点

- ①町について知っていることを話題として提示し、児童自身がよく知らない「人」という分野について問題意識を持つことから学習を始める。「ヒーローのように自分たちにも地域のためにできること」をテーマに、どんな方法を実践していくのか話し合いをする。
- ②プロジェクトによる探究を通して、地域のために尽力して下さっている方の活動や思いについて知り、課題の解決に向けての取組について理解を深める。
- ③プロジェクトの過程で町のためにできることを実行したり、調べたことを発信したりすることで地域社会に学習成果を還元させる。

(2) 資質・能力に関わる視点

地域のために尽力されている方について学習し、地域のよさを実感させ、自分たちも世羅町のために活動したり、発信したりするというゴールを設定する。単元質問の「世羅町のヒーローのように、自分たちにできることは何だろう。」をもとに、児童が目的意識を持ち、自ら課題を解決していこうとする自発性を養う。また、全体で作成していた活動計画書をプロジェクト後半では、グループごとで作成する。年間を通して、進捗状況に合わせて計画を見直したり、1時間の授業の流れを学習アイコンを活用し、児童と一緒に組み立てたりすることを通して自発性を養う。

また、クラスの中で情報を共有したり、グループでアドバイスをし合ったりしながら学習を進めることでコミュニケーション能力を育成するとともに、校外の方と話をする機会を多く設けることで、相手意識をもったコミュニケーション能力を身に付ける。

(2) 評価規準

【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
① 世羅町には、地域に貢献したいと思い尽力して下さる方がいることに気づき、自分たちの生活と関わっていることを理解している。 ② 地域の人へのインタビュー活動や、地域のために実行しようと考えた活動を計画的に実行することができる。 ③ 地域社会への貢献に対する自らの意識の高まりは、探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	① 活動を進める中で、自発的に次の課題を設定することができる。 ② 必要な情報を適切な手段を選択して幅広く収集している。 ③ 「世羅町の人々の笑顔・元気につながっているか」等の視点で情報を構造化しながら整理し、見直している。 ④ 地域の人と適切にかかわるために相手や目的に応じて効果的な表現をすることができる。	① 課題解決に向けた自己の取組を振り返ることを通して、自分の意志で探究的な活動に取り組もうとしている。(自発性) ② 自ら意見や考えを持ち、他者の意見も尊重しながらより良い方法を検討しようとしている。(コミュニケーション能力) ③ 地域のために自分でできることに取り組むことを通して、自分と身近な地域の人との関わりを見直そうとしている。

(3) 質問

本質的な問い	世羅町の人を笑顔・元気にするためには？
単元を貫く問い	世羅町のヒーローのように、自分たちにできることは何だろう。

学習活動の構想

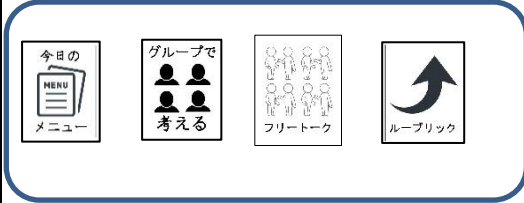
学習段階	学習活動 (Q 個別の問い ・ 児童の活動)	評価		教材および ICT 活用
		評価規準	評価方法	
課題設定 (6時間)	Q 世羅町のことで知っていること・知らないことは何だろう ・生活科で学習してきたことを振り返る。 ・町のことで知っていることと知らないことを整理する。 ・あいさつおじさんは、どうして有名なのかを考えヒーローの定義「世羅の笑顔・元気のために頑張っている」を決める。	【思①】	行動観察 Jamboard 振り返りシート	Jamboard スプレッドシート

	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつおじさんのような「世羅を笑顔・元気にするために頑張っている」ヒーローを探すための学習計画を立てる。 			
情報収集 (14時間)	<p>Q どうやったら、世羅のヒーローが見つかるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで世羅町に住んでいる先生にインタビューをする。 ・他のグループと見つけたヒーローを交流する。 <p>Q 本当にヒーローと言えるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが考えているヒーローの条件に合っているか見直す。 <p>Q インタビューするために必要なことは何かな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒーローにインタビューの依頼をする。(手紙・電話) ・ヒーローにインタビューで質問したいことを決める。 ・インタビューを実行する。 	<p>【知②】</p> <p>【主②】</p> <p>【思②】</p>	<p>行動観察 Jamboard Google スライド メモ 振り返りシート</p>	<p>Jamboard Google スライド スプレッドシート</p>
整理分析 (7時間)	<p>Q ヒーローにインタビューしてどんなことが分かったかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューでメモしたことをXチャートに整理する。 	<p>【知①】</p> <p>【主②】</p>	<p>行動観察 Jamboard 振り返りシート</p>	<p>Jamboard スプレッドシート Google スライド</p>
まとめ・表現 (3時間)	<p>Q ヒーローの方達のすごいところは、どこだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、ヒーローにインタビューして感じた「ヒーローのすごいところ」をまとめる。 ・全てのヒーローに共通していることを考え、ヒーローの思い「町の人々の笑顔・元気のため」を捉える。 	<p>【知①】</p> <p>【思④】</p>	<p>行動観察 Google スライド 振り返りシート</p>	<p>Jamboard スプレッドシート Google スライド</p>
課題の設定 (5時間) 本時 (4/5)	<p>Q ヒーローのように、自分たちが町のためにできることは何かな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューの際に整理したXチャートをもとに、世羅町のために自分たちにできそうなことを考える。 ・活動の計画を立てる。 	<p>【思①】</p> <p>【主①】</p>	<p>行動観察 計画シート 振り返りシート</p>	<p>Jamboard スプレッドシート Google スライド</p>
情報の収集 (8時間)	<p>Q 活動を実行するために、どんな準備が必要かな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実行するために必要なものを出し合う。 ・実行に向けて必要な情報を集める。 	<p>【思②】</p> <p>【知②】</p>	<p>Jamboard 振り返りシート</p>	<p>スプレッドシート</p>
実行・整理分析・実行 (7時間)	<p>Q 実行することは、ヒーローの思いとつながっているかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実行することを振り返り、ヒーローの思いとのつながりを考える。 ・計画を実行する。 	<p>【思③】</p> <p>【主③】</p>	<p>Jamboard 振り返りシート</p>	<p>Jamboard スプレッドシート</p>

<p>まとめ・ 表現 (10時間)</p>	<p>Q みんなの取り組みを誰にどうやって 伝えたらいいかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰に何を伝えたいか決める。 ・ヒーローへのお礼を伝える方法を決める。 ・グループごとに「手紙」「メダル」「感謝状」「ちらし」を作成する。 ・ヒーローに向けて町のために頑張っていることへの感謝と、自分たちがやったことの成果を発信する。 ・発信したことの成果を振り返る。 	<p>【思④】</p> <p>【知③】</p> <p>【主③】</p>	<p>振り返りシート</p>	<p>Jamboard</p>
-------------------------------	---	-------------------------------------	----------------	-----------------

本時の学習内容

本時の目標	世羅町を笑顔・元気にするために考えたことを実行するための計画をたてることができる。
個別の問い	ヒーローのように、自分たちが町のためにできることは何かな。

学習段階	学習活動 (Q 主な発問 ・ 児童の活動)	教師の動き (指導上の留意点)	評価規準 (評価方法)
導入 (5分)	<p>Q ヒーローのように、自分たちが町のためにできることは何かな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体で活動の流れを確認する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> classroom と学習アイコンで活動の流れを見える化し、児童に見通しを持たせる。 	
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> グループごとに担当する活動を実行するための計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>〈期待される児童の反応 B 評価〉</p> <p>【リコーダーグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 老人ホームでリコーダーを演奏して喜んでもらいたいね。そのために、演奏する曲をきめなといけないね。練習する時間は、音楽を使っていいか先生に相談しよう。 まずは、老人ホームの人に行ってもいいか手紙を書いて相談してみようよ。 <p>【そうじグループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 場所は、今高野山にしようかな。掃除道具がたくさんいるから、教頭先生にどれくらい掃除道具があるか聞いてみよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> これまでのプロジェクトでの学習内容を Classroom で共有しておき、児童が必要に応じて活用できるようにする。 グループごとに「どこで何をするか」「そのために何が必要か」「だれに相談するか」の視点ごとに計画の見通しを持たせる。 見通しが持てたグループから、どの順番で取り組んでいくかを整理させる。 必要に応じて、他グループと話し合ったり、他グループの計画シートを見たりすることは許容し、考えを練り合わせる。 	<p>【思①】</p> <p>活動を進める中で、自発的に次の課題を設定することができる。</p> <p>(行動・発言・計画シート)</p>

<p>ふり返し (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 個人で本時のふり返しをする。 <div style="border: 2px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>〈期待される児童の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> • 今日、活動の内容を決めることができたので、次の時間はどの順番で進めるか考えたいです。 • リコーダーを演奏するのに、練習のことしか考えていなかったけど、友達の意見を聞いて老人ホームの人に聞いてみることも必要だと思った。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> • 書き終わった児童から、ふり返しを交流させる。 	
-----------------------	--	--	--

評価ツール

自発性・コミュニケーション能力ルーブリック 【世羅のヒーローを探せ！プロジェクト】

自発性	A	B
自ら課題を見つけて学習の進捗管理をする力	<p>友達と話し合い、学習のゴールイメージをもちグループで計画を立てて活動しようとしている。</p> 	<p>世羅の元気・笑顔のための活動を考え、先生や友達の話を聞いて、みんなで決めた活動計画にそって自分で活動を進めることができる。</p> 
コミュニケーション能力	A	B
伝える能力	<p>相手や目的に合わせて意見を伝えることができる。</p> 	<p>自分の意見とその理由を伝えることができる。</p> 
受け取る能力	<p>相手の意見を短くまとめ、かくにんしたり質問したりすることができる。</p> 	<p>相手の意見を反応しながら聞き、感想を伝えたり、質問したりすることができる。</p> 